

臨床研究推進研修会主催記 —研究のスキルを学び得られるもの—

国立成育医療研究センター 薬剤部 中國 正祥
横浜医療センター 薬剤部 赤木 祐貴

平成27年5月から翌年の1月まで国立病院機構東京医療センターにて計5回の臨床研究推進研修会を開催しました。平成27年度の研修会では関東信越グループの11施設から計14名の薬剤師が受講されました。本研修会は臨床研究、疫学研究および薬剤業務研究を実施する際に必要なノウハウを習得して研究計画を立案できるスキルを身につけることを目的としています。薬剤師が研究のスキルを習得することで薬物療法の科学性を適切に評価しエビデンス発信に繋げることができます。

病棟業務が盛んに行われ薬剤師は調剤や医薬品管理だけでなく薬物療法の有効性の担保や安全性の確保に係わる機会が増えており、医療現場では薬剤師独自の視点から薬物治療や医薬品情報を客観的に評価し患者および他の医療スタッフへ適切に伝達するスキルが求められています。

近年では、医療を客観的に評価する方法として科学的根拠に基づく医療（Evidence-based medicine）の重要性が指摘されています。科学的根拠に基づく医療を行う際の1つの手法として「(1) 患者の問題の定式化、(2) 問題についての情報収集、(3) 情報の批判的吟味、(4) 情報の患者への適用、(5) (1)~(4)のプロセスの評価」があります¹⁾。薬剤師業務の中で浮かび上がった疑問や生じた問題を整理することから始まり、整理された疑問や問題を基に情報を収集し薬剤師の視点から薬剤師業務や薬物療法の科学性を評価することができます。解決し難い疑問や問題であれば研究課題の種となる可能性があります。このように

科学性を適切に評価し研究を実施する上で必要な知識や技術が多くあります。本研修会では病院薬剤師が文献等の情報を収集・評価し研究計画を立案するために必要なノウハウの習得を目指し、平成27年度の研修会では専門的な講義に加えてグループ演習を交えたカリキュラム内容で開催されました（表1）。

講義では外部講師も招待し基礎から応用まで幅広く学べる内容とし、グループ演習では各受講者が研究テーマを設定し文献検索や研究計画の作成を行いました。各グループに専属のチューターをつけることで各人の進捗にあわせて十分な意見交換が行えるような形式としました。最終日には各受講生が研修会で得られた成果を発表し活発な意見交換が行われました（写真1）。

研修会後のアンケート調査では、グループワーク演習について毎回75%以上の受講者が「十分、議論できた」、「議論できた」と回答していただき、「内容がまとまった」、「統計学について知らないことが多く、講義されなかった部分も学ぶ必要があると考えた」、「自分の抱える問題が明確になり次への方向性が見えた」等の積極的な意見が多く挙げられ、受講者の前向きな姿勢が感じられる研修会となり、加えて受講者が抱えている研究課題の整理にも貢献できたと考えています。

一方で、「十分な準備ができなかった」という多忙な業務の合間での準備の難しさや「文献検索ができる環境がない」などの改善すべき課題点も挙げられました。これらの改善点も含めて担当部

表 1

	研修内容
第 1 回	・ 講義：「臨床研究の倫理規範とIRB」、「クリニカルクエスチョンからリサーチクエスチョンへ」、「文献の検索方法」 ・ グループ演習
第 2 回	・ 講義：「研究デザインの立案」 ・ グループ演習
第 3 回	・ 講義：「評価項目の選定と使用すべき検定手法」 ・ グループ演習
第 4 回	グループ演習
第 5 回	・ 成果発表 ・ 講演：「臨床研究七転び八起き、千里の道も一歩から」、「薬剤師視点による臨床研究の企画・立案 ―実例を通して―」



写真 1

員が受講者の意見を積極的に取り入れながら、次年度以降はさらに充実した研修会にできるよう可能な限り改善を行います。

最終日の発表会後のアンケート調査より、90%以上の受講者が研究計画立案について「十分、学ぶことができた」「学ぶことができた」と回答い

ただき、本研修会のプログラムは、受講者の研究実施に必要なスキルを習得するために役立つ内容のカリキュラムであったと考えています。

著者は平成26年度研修会に受講者として参加した経験があります。チューターや研修会に参加された方々と意見交換し広く深く交流することができたことは薬剤師としてスキルアップするための貴重な経験であったと感じています。また本研修会を通じて学んだ内容は、臨床研究、共同研究及び業務研究に関する研究計画立案のきっかけとなりました。

受講者のスキルアップに繋がる研修会を目指して次年度も開催する予定です。次年度の参加申し込みを担当部員一同お待ちしております。

引用文献

- 1) 川上純一. エビデンスを伝える―薬剤師の立場から, 臨床薬理, 2003, 34, 217-222.